

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			法学部	□ 必修	■ 選択
英文表記	Criminal Procedure II	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
			開講期間	□ 前期 □ 後期 □ 通年 ■ 集中	
ふりがな	つなしま きみひこ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2 単位
担当者名	網島 公彦	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	刑事訴訟法Ⅰと合わせて受講することで、刑事訴訟手続に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	刑事訴訟法における基本的な概念と刑事訴訟手続の流れを理解することで、より専門的な学習への足掛かりとする(専門文献を読解する能力を身に付ける。)ことができる。				
授業概要	初学者を対象に、刑事訴訟法のテキストに沿って、その内容が理解できるように説明していきます。重要な論点については、事例の検討(判例評釈の読解等)も行います。				
授業計画					
第1回	公訴・公判① 公訴の提起 訴訟条件 訴因(1) (訴因と公訴事実)				
第2回	公訴・公判② 訴因(2) (訴因の特定)				
第3回	公訴・公判③ 訴因(3) (訴因変更の要否、可否)				
第4回	公訴・公判④ 公判手続(1) (管轄 裁判所 被告人 弁護人)				
第5回	公訴・公判⑤ 公判手続(2) (公判審理の流れと諸原則 被害者の関与)				
第6回	公訴・公判⑥ 公判手続(3) (公判の準備)				
第7回	証拠① 証拠法総論 (自由心証主義 証拠能力 証明力 挙証責任)				
第8回	証拠② 自白(1) (自白法則)				
第9回	証拠③ 自白(2) (補強法則 共犯者の自白)				
第10回	証拠④ 伝聞法則(1) (伝聞証拠とは)				
第11回	証拠⑤ 伝聞法則(2) (伝聞例外その1)				
第12回	証拠⑥ 伝聞法則(3) (伝聞例外その2)				
第13回	証拠⑦ 違法収集証拠排除法則				
第14回	上訴・再審 その他				
第15回	振返りの講義・問題演習				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	各回の授業の前にテキストの該当部分をよく読んで疑問点を整理しておきましょう。採用したテキストは初学者を対象とした入門書で、平易かつコンパクトに書かれているのですが、読んだだけでは何のことか分からないこともあると思います(1.5時間程度)。授業後は、資料を見返したりテキストの該当部分を再読するなどして復習し、事前の疑問点が解消したか確認してください(1.5時間程度)。				
履修条件 受講のルール	刑法を履修済みであることが望ましいですが、単位取得を必須とはしません。刑事訴訟法を勉強してみたいという意欲があることが必須条件です。				
テキスト	池田公博ほか『刑事訴訟法』(有斐閣ストゥディア 2022年)				
参考文献・資料	別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選(第11版)のほか、講義で適宜指摘します。レジュメなどの資料は、Portal Siteで配布しますので、事前に必ずPortal Siteを確認するようにして下さい。				
成績評価の方法	本講座は、テキストの理解という基礎的レベルの達成を目指しますので、その達成度を測るという観点から、定期試験の結果を80%と重視し、補足的に授業貢献度(小テストでの回答、講師からの問いかけに対して何か応答するなど、授業に積極的に関わる姿勢をいう。いずれも誤答による減点はしません。)を20%として、総合判断します。				

	※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14:40 ~ 16:10 金曜日 13:00 ~ 14:30
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	本講座は刑事訴訟法の基本的な概念を習得することが目的なので、どうしてもテキストの解説が中心となりますが、刑事訴訟手続の流れを具体的にイメージしてもらうためにも、実務でのエピソード(例えば、ビデオリンクによる証人尋問が実際にどのように行われるか、など)などを適宜織り込んでいきたいと思えます。
学生へのメッセージ	進路として警察官や刑事司法関係機関を考えている人は、一度は刑事訴訟法を学ばなくてはならないでしょうから、本講座をその入口としてください。また、進路としては全く考えていないが、犯罪小説や映画が大好きで刑事訴訟手続に興味があるという人も、意欲さえあれば歓迎します(これらの中に出てくる刑事手続の描写には誤りも多いですから、正しい知識を身に付けましょう。映画「それでもボクはやってない」(周防正行 監督・脚本)は、いいですね)。より専門的な学習を目指している人にとっても、基礎固めとして意義があると考えます。